

父は開業医で、私は女ばかりの姉妹の長女に生まれ、自然な感じで医者になりました。私が大学病院勤務の時に父が脳梗塞で倒れ、閉院しなければいけないという話になりました。私は医師としてまだまだ未熟で自信も無く、大学でやりたいこともありました。でもこのまま閉院して良いのか。私は医師になっている。父がいるから医師になることができている。父に申し訳ない。とかなり悩みました。そして後を継ごう、とりあえずがんばろうと開業医になりました。

わからないことだらけで不安な毎日でした。そのうえに昔から自分の手で子育てをしたいという思いもありました。往診は断り、昼間の休憩時間は、買い物に行き食事を作り子供と触れ合い、夜の診療が始まると本を読みながらお留守番するようにと子供にたくさんの絵本などを渡し（おかげで本の好きな子になりました）、夜の診療時間中に急いでマンションに戻り（クリニックのすぐ裏にマンションがあります）昼間作ったご飯を温めて食べさせて、またクリニックに戻って診察をするという日々の繰り返しでした（患者様にも申し訳ない話です）。寝る前にも絵本の読み聞かせをするのですが、いつもお母さんは読んでいる途中で寝てしまうと子供から笑われました。

でも、当時私が母として子供にできることはそれで精一杯でした。できるだけ休診は避けようと思っていたので、ママ友との情報交換などはもつてのほか、学芸会やいろいろな行事には参加してあげることができませんでした。子供も悲しかったと思いますが、私もかなり辛かったです。

そして同級生たちがどんどんスキルアップ・キャリアアップしていくのをただ見ているだけの自分も辛かったです。私は母としても医師としても中途半端な人間で終わってしまうのだなあと思いました。誰も相談する人がいなく、今思えば一番辛い時期だったかもしれません。

息子が東京の大学に行く頃になり、これからはもう少し診療に専念していこうと思い始めました。往診にも行くようになり、毎年患者様との旅行やイベントも行うようになりました。大阪府内科医会に入会し、理事に選んでいただきました。その頃から私の環境が変わってきたように思います。開業医に役立つ講演会なども多くあり、開業医の先生方とお話する機会も増え、たくさんのことを教えていただきました。日々診療をしていて起きる心配事にも気軽に相談にのってくださいました。地域医療に熱心で、かつ勉強熱心な先生方も多く、様々な大きな学会にも積極的に発表されています。去年は日本臨床内科医会の常任理事を拝命し身が引き締まる思いです。日本臨床内科医会でも多くのことを学ばせていただき感謝しております。今もこうして女性医師の方々にメッセージを送る機会をいただきました。以前のとても辛かった時期とは全く違う私です。一人で悩まず、一歩踏み出せば、やりたいと思えば、幾つからでも始められる、頑張れるのだと知りました。

女性医師の増加、働き方改革、男女共同参画など女性医師の重要性が増して機運が高まっています。しかし、いまだに30歳代の女性医師の就業率は70%台に留まっています。

どうしても女性医師は診療の他に家事・子育て・介護などを両立する必要に迫られることが多々あるのが大きな原因だと思います。現在私も母の介護をしながらの診療です。

今までの自分を振り返って思えば、女性医師にとって、自分で時間の管理がしやすいので開業医への道の選択は向いていると思います。日本臨床内科医会では開業医に沿った講演会、開業医のための配慮が行き届いたノウハウなどを提供してくれます。私ももっと早くから入会していたら良かったと思います。

年齢を重ね、最近私は若い人たちにお伝えする番が来たのだと感じています。

自院のHPを作ってから、最近コロナの影響があるのか更年期や不定愁訴などの若い女性患者様が他府県からも多く来院くださいます。若い頃よりももっと説得力を持って、自分の経験や感じてきたことなどをお伝えし指導させていただいています。遠くから来て良かったと言っていただき、私も医者冥利に尽きる瞬間です。

若い女性医師の皆様にも自分の経験や失敗からわかったことなどをお伝えしていきたいと思っております。一人でも多くの女性医師の皆様が努力して取得した医師の道を断念することなく、ご活躍できることを期待しております。

日本臨床内科医会では、託児付きセミナーや私たち先輩女性医師との相談会なども計画しております。今後も引き続きお役に立つ情報を発信していきたいと思っております。

お一人で悩まず、まず日本臨床内科医会へご相談ください。

心よりお待ちしております。